

「問題生徒」は「宝」

『問題生徒』は『宝』、関わり続けてください。」

これは、先輩Aさんからの年賀状に添えられた一文であり、「学校の荒れ」に直面し、悪戦苦闘していた私の支えとなった言葉です。

当時の勤務校では、一部生徒による教室離脱や器物損壊などの「問題行動」が頻発し、私たち教師は、連日、その対応に追われ、疲弊していました。荒れが長期化するにつれて、「問題生徒」を力で排除しようとする気運が高まっていきます。私はその考えには与することができず、愚直に「問題生徒」と向き合っていました。しかし、いったん荒れ始めた子供たちが平常心を取り戻すには時間がかかります。私の「信念」がぐらつき始めました。

ちょうどそのころ、先の年賀状が届いたのでした。Aさんは生徒指導のベテランであり、私が内地留学中にお世話になって以来のスーパーバイザーです。私はAさんの言葉を胸に秘め、肝に銘じ、「問題生徒」に関わり続けました。私の方から声をかけ、「問題行動」の背後にある子供の「心の叫び」に謙虚に耳を傾けようと努めました。

ある日、私がいつものように「問題生徒」たちと言葉を交わしているうちに、たまたま私に手荒なことをしそうになった生徒がいました。とっさにリーダー格が「やめとけ！」と仲間をたしなめ、「俺、この先生のこと、何でか憎めんがだ。」と小さくつぶやきました。いつもは鋭い彼の眼光が、そのとき一瞬、柔らかく優しくなったように感じました。

あれから二十年の歳月を経て、今、改めてその言葉をかみしめています。

「問題生徒」は「問題行動」を通して、“もっと自分のことを見てほしい” “もっと俺に関わってほしい”などと私たち教師に訴えていたのかもしれませんが。「問題生徒」であっても、決して見捨てることなく関わり続けられれば、やがて私たち教師と心が通じ合い、信頼の絆で結ばれます。そのことによって子供は変わり始めます。

私に大切なことを学ばせてくれた「問題生徒」は、やはり「宝」だったのです。